

筑前琵琶保存会

第62回定期演奏会

みのりの秋



令和8年10月25日(日) 12:20開場・13:00開演

大濠公園能楽堂 大濠公園(3番出口)下車 徒歩7分
福岡市中央区大濠公園1-5 ☎ 092-715-2155

入場料: 前売 2,500円・当日 3,000円(来場者プログラム付)

チケット取扱(9月1日~): チケットぴあ(Pコード 333373)

主催: 筑前琵琶保存会

後援: 福岡県・福岡市・福岡市教育委員会・(公財)福岡市文化芸術振興財団・福岡文化連盟

お問い合わせ: ☎ 070-5691-6950(筑前琵琶保存会・寺田)

ホームページ <http://chikuzenbiwahoizonkai.mystrikingly.com>

チケットは8月20日からホームページからもお申込みいただけます→



筑前琵琶保存会 第62回定期演奏会

みのりの秋

第一部

一 通りやんせ

編曲||寺田蝶美
演奏||筑前琵琶保存会会員
篠笛||中西瑠美子

江戸時代より歌い継がれてきたわらべ歌であり、子供の成長を願う天神様にお詣りをする歌詞。本日は天神様とゆかりの深い二十五日、この曲にて開演する。

二 虎狩り

作詞||平田汲月 作曲||嶺旭蝶
演奏||押川瑠音

豊臣秀吉の号令により黒田藩も朝鮮出兵に参加したが、現地では虎の出現に悩まされていた。槍の名手である母里太兵衛が虎退治をしようと岩穴に槍を差し入れたところ大虎が出現し窮地に追い込まれる。その時、見物していた後藤又兵衛が手を貸して難を逃れた。二人の信頼を物語る挿話である。

三 本能寺

作詞||田中濤外 作曲||嶺旭蝶
演奏||山本朱莉

天下統一も目前となった織田信長。本能寺に滞在していた天正十年六月二日の未明、突然の襲撃に跳ね起きた。敵は家臣の明智光秀、進路を変えての謀反であった。逃げられないと悟った信長は火煙の中、自刃して果てる。

四 ルソンの壺

作詞||角屋壽吉 作曲||嶺旭蝶
演奏||堤蝶芳

大阪・堺の貿易商であった助左衛門はルソン（フィリピン）より壺を仕入れてきた。この珍しい壺を豊臣秀吉の御前に並べたところ諸大名たちは価値も分からないまま競って買い求めた。千利休はこの事態に及び、茶道の心とは何かを問いかける。

五 関ヶ原

作詞||角屋壽吉 作曲||嶺旭蝶
演奏||寺下咲良・永江柊子

慶長五年夏、徳川家康率いる東軍と石田三成を中心とする西軍が関ヶ原で激突、天下分け目の戦いとなった。当初西軍であった小早川秀秋が反旗を翻し、西軍の団結は見る間に崩壊した。わずか半日で東軍の勝利となった。

第二部

六 天草の麦

原作||本多静雄 作曲||嶺旭蝶
演奏||松本沙紀

天草四郎率いる島原の乱の後、荒廃した地に代官として任命された鈴木重成は民を励まし暮らしを立て直すため奔走するも、その石高の少なさに愕然とする。幕府に減免を訴えるために、重成は自刃して嘆願をした。命を賭して自分たちのことを思う姿に心を動かされた民は、神社を建立し、代々語り継いでいる。重成の姿を聖書の言葉「一粒の麦」になぞらえた作品。

七 八百屋お七

原作||井原西鶴「好色五人女 巻四」他 作||寺田蝶美
演奏||吉山明咲
篠笛||中西瑠美子

琵琶囃子||宝満蝶翼・江田蝶月
江戸・本郷にある八百屋の娘お七は、好意を寄せる吉三郎にひと目会いたいと願う一心で、火事を知らせる半鐘を鳴らし、人々に木戸を開けさせる騒ぎを起こした。これは江戸の町にとって重罪であり、裁きを受ける事となった。自らの年齢を偽ることなく十六歳と答えたお七に、大人としての刑が下った。やがて春となり、鈴ヶ森刑場より立ち上る煙と身を変えた若きお七の悲しい物語。

八 天晴曲垣平九郎

作詞・作曲||寺田蝶美
演奏||鶴蝶陽

急で長い石段の頂にある愛宕神社を見上げて、三代將軍家光公はあの梅花の枝をと所望する。皆が駆け出そうとした矢先、一興に騎馬にて参れと付け加えた。挑む者があるも急な石段を馬で上ることはやはり困難かと思われた時、曲垣平九郎が名乗りをあげた。日頃の馬術鍛錬の成果を発揮し頂まで見事に上がる姿に、殿より「天晴」とのお褒めをいただく。曲芸のように石段を上る様子が面白く、講談でも知られる話。これより「出世の石段」と呼ばれるようになる。

九 元禄赤穂伝 吉良邸討入りの件

作詞・作曲||寺田蝶美
演奏||寺田蝶美

「忠臣蔵」の呼称で知られる。大石内蔵助をはじめとする浅野内匠頭家臣四十七士による討ち入り事件。吉良上野介への仇討ちを密かに企て、師走十四日未明、茶会後の皆が酔い疲れて寝静まったところを襲撃。敵の弓弦を切り捨て、三人一組となり山鹿流兵法を実践し戦う中、隣家は高張提灯で照らし静かに支援する。時迫る中ついに隠れている瘦せた老人を発見、背中への刀傷をも確認し、悲願であった吉良上野介の首を打ち取ることに成功する。

十 みのりの秋

作曲||嶺旭蝶
演奏||筑前琵琶保存会会員
箏||みやざき都

当会第十五回記念演奏会（昭和五十四年）にて披露した琵琶とピアノの合奏曲を今回は箏との合奏で新たな息吹を吹き込み演奏する。

司会||井芹美穂
舞台監督||岡田一志 照明||中村京 音響||糸山和則